

## 5・カーネーションを胸につけ



### 春風が甘い声で囁く

「今日は何処にお出でになりますか」と女房が聞く。私は「今日はまだ計画していない」というと、「では出掛けますから」という。とすれば私は今日は留守番をしなくてはならない、というのが今日のプランだ。

だがプランがないことはない。セマウル金庫と郵便局に行く用事を思い出した。私は、先に急いで出掛けてくる用事がある、とあって9時を待たずセマウル金庫に10分前に到着し、時間前だけれど受け付けてもらった。満期になった貯金を引き出し、貯金を振り込んだ。3月25日に入れなくてはならない貯金振込みが8日間遅れたことを思い出した。来月は5月3日を過ぎれば引き出せることになる。

ゆっくりと歩いて郵便局まで行くと9時を過ぎていた。ソウルの下の娘が毛のチョッキをその姉に編んでくれとிட்டのが全部出来上がり、小包で送らなくてはならないので、郵便局の窓口で受け付けてもらった。そして、貯金を引き出した金を私の貯金通帳の緑色と青色に半々に分けて入金した。

それから、町営バスを待つ必要もなく歩いて家に帰る道は、春の香りを全身に受けながら歩いて行く。春の香りと春の光は、昔幼い時の村道を歩いた気分にさせ、抜け道の石垣に沿って折れながらそっとそっと歩いて行くと、春風が甘い声で私の耳元で春が来たと言っていた。

今は帰ってきて、静かな雰囲気今日の元老達の文章を鑑賞していると、トンサム洞の友人が電話を掛けてきた。出て来られないかという電話だ。私は留守番をしているという、酒でも一杯やりたくて電話を掛けたという。それなら私一人だから我が家にお出でとிட்ட。我が家には酒は沢山あるが、肴は芳しくはないがシムシムプリならあるとிட்ட。すると、酒飲みは肴が問題ではないという。こうして、間もなく友人が花を揺する春風の中を突き抜けて訪ねてくるのだ。春風が私の部屋までついて来るので絶世の美人の花でなくても、蝶になれなくても、ほんわかと過ごしてみるか.....?

## 清く明るい清明に雨が降るようだ

清明といえば文字通り清く明るいことを言う。今日は清明だ。春は雨が貴重だと昔から言うが、今年はより以上のようだ。煙草を吸ってはいけないと法で定めたとしたら、煙草が吸えなくなったとってデモをしたり自殺する人もいるだろうか.....? 毎日煙草の吸殻を捨てて山火事を出す事故が絶えない。その煙草のせいで国の財産を灰にしてしまう耳を塞ぎたいこと.....これをこのままにしておいていいのか.....? 国の全部が灰になってしまってさっぱりすることなのか.....? と考えながら山の頂上まで燃え上がって行くテレビを見て興奮する。

辞典を見ると、清明は天気が清く明るいことから24節気の一つだ。春分と穀雨の間で、陽暦では4月5～6日頃だという。今年は1日早いわけだ。今晚は南部地方は雨が降るといふ。嬉しい報せだ。嶺南、湖南の農夫達は喉の渴きを癒すことが出来るだろうか.....? 今も燃えている山火事でも消さなくてはならないから、沢山の雨が降ってくればよいのだ。

## 突然急用が起きるとき

天気がじめじめしていて、清明という日だけれど清く明るいことはなく、一人家で過ごしながらかんピューターをしている。多くの元老達の掲示した文章を見、書き溜めもしていると電話が掛かってくる。

777 は今私がコンピューターをしているので通話中で、283 に掛かってくる。それなら便利に使うことが出来る。私の机の前に座ったままで受けることが出来る電話なので支障がない。電話でやりとりして話せばよい。

ところが3300の電話が掛かって来た。この電話は各部屋を連結している電話なので、家族に掛かってくる電話だ。私に掛かってくる電話は、3300では100に1つ位だ。長い間私に連絡はないが、わざわざ掛けて来る時だけ掛かる電話だ。私が一人である今は、私に来る電話は勿論ないが、立ち上がって電話機まで行かなくてはならないので煩わしい。

ところで今777は通信中で、283は私に掛かって来た電話なので通話中だ。それで3300に掛かった電話は受けたくない。余りにも長い間ベルの音が止まないのを受けてみた。孫娘の電話だ。母親に代わってくれという。私も通話中だったが、待ってくれといい置いて受けた電話だ。それで母親はいないという、

さんの電話番号を番号簿で探して教えてくれという。

2階の我々の部屋の番号簿にはない。1階の娘の部屋に行き探してみてもない。誰かが表門のベルを押す。忙しいことで、2階ではコンピューターも電話が掛かっていて、また283電話も通話中で、3300には孫娘が番号簿で番号を探してくれというので、無我夢中で面倒を見ている最中に表門では客がベルを押し騒々しいことだ。こんな時こそ落ち着いてしなければならないのだが、性急

な私は精神を整えることが出来ない。更に1階から2階へ、また1階へと駆け回るのは多分運動にもなることだ。健康にプラスになるなら構わないと思う。順々に.....コンピューターは消し、283はまた電話を掛けるからと一旦中断して3300と表門の客の方を解決すればよいのだ。

## 植樹日は行事で終わるな

植樹日には山に木を植えるといって、黒い服を着た人達がどの山にも一杯に群がり、初等学校の学生から、学生なら全員が山に登って行って樹を植えた昔のことが思い浮かぶ。

今はそんなことはしないが、やはり植樹日だといって樹を植えている。昔は山火事はひどくはなかった。だが今は植樹日に植える樹よりも火で燃えてしまう樹がずっと多い。煙草の火を何処へでもやたらに投げ捨てる人間の横暴...!いや、山に火を付ける気が.....?人間としては最低な人間だ。山に煙草の火を捨てれば火が付くことが分からないのか.....?

植樹日の今日、樹を植えるが、古い樹はなくしてしまい、新しい樹を植樹すればよいということか.....?古くなれば早く死ぬべきだということと同じだ。今までも毎日山火事で人々を心配させて来た。その山に火が出れば30年間の努力が必要なのだ。国を滅ぼす人々は自分がしたことを知らず、先ず便利で自分さえ良い暮らしが出来ればよいという安逸な考えでいるのだ。

だが我が国が滅び、日本野郎の統治下にある時、李完用\*のような人もいたし、柳寛順\*\*のような人もいた。今はどうか.....?自分の腹さえ一杯なら良いという人は国とは何かを知らないのだ。昔は煙管に煙草を詰めて長い竿で煙草を吸いながら山にも登ったし、思い切りはたいても灰になって、山火事は起きなかった。

道で観察すると、煙草を吸ってから空中に投げる若い人達を大勢見掛ける。そんな危険な行為を格好が言いというのか.....?今日の植樹を行事で終わるのでなく、樹を愛し、長く育て愛護しよう。

訳者注：\* 韓末・植民地期の親日派官僚。日韓保護条約締結のおり大臣として賛成、乙巳五賊の一人と数えられている。

\*\*女学生の時独立運動に参加、16歳で獄死した国民的ヒロイン。

## 墓参りに行き蠟燭をつけるべきか

何年か前の夏に私は墓参りに行き、亡父の墓の前で昼寝をしていた。市立公

---

\*

\*\*

園墓地なので安心して、疲れた体を当家の墓と横の墓の間に頭を向けて横たえていたが、寝入ってしまった。人の気配がして眠りから覚めた。

私が頭を向けている墓の子孫が墓参りに来て、私が眠っているので起こしたようだ。40代くらいに見える夫婦だった。私はぼんと立ち上がり、当家の墓の前になると、もう蠟燭をつけていた。酒を注いで上げる瞬間.....私が、その蠟燭を消してください.....というのと直ぐ消した。

その夫婦が墓にお辞儀をして出て来るところで、今は墓参りに来て絶対に蠟燭をつけるのもいけないし、煙草を吸うのもいけませんよ。山火事になるのはそのせいですよ。というとその若い人達は直ぐに頷いて、知らなかったという。

蠟燭は室内で祭祀を執り行なう時にはつけ、少しでも危険性のあるときは避けなくてはならない。今ラジオニュースを聞くと、今日40数箇所山火事が起きて燃えているという。

今日の植樹日に起きたもっと沢山の山火事が墓参り客の仕業だという。樹を何株か植え、その数十倍を山火事で燃やしてしまった。間抜けな人間どもが蠟燭は必ずつけなくてはならないのか.....? 強い風で火は急速に広がっているというが、やるせないことだ。植樹日に顔を立ててやることは出来ないのか.....。

## 海を越えた遠くの山には陽炎が立つ

昨日の寒食日に幼い蕾が噴き出した野に山に、繁雑な人の歩みが忙しく、先祖を訪ねる子孫の真心をあの世界では良く分かっているのか.....? 踏みにじられ火に焼かれ可哀想なのは、育ちつつある新しく生まれた草花達だ。色とりどりに人間の目を慰めることも出来ず焼け死ぬ美しい花々を想像してみる。目の前に展開される釜山港は穏やかな波が銀色にきらめき、その向こうの遥かに遠い町内は陽炎が立ち込めていて、春の夢に浸っている。今日の登山班は同門で、陽気な一日を楽しむのだが、私は家で仕事が生じたので参加できない。惜しいことだ。みんな楽しい一日となり、同門が芝生で弁当と焼酎を一杯やりながら楽しんでいるのが目にありありと浮かぶ。

我々がいつも行ったあの場所.....今は可愛い花が咲き、樹は点々と青い服を着て、みんなを見て嬉しがるだろう.....! 冬の間、裸木が寂しげにその間を通して遠くの方を見せてくれていたが、今は堅固な青い山村を形作っただろうなあ.....! 私は、今日みんなが楽しく遊んでいるのを想像でもしながら過ごそう。

訳者注：寒食日は当時から105日目で墓参をする日

## 春風が吹いた.....?

おかしいな.....? 毎日電話を掛けてきた友人が10日間も消息がなく、私が電話を掛けても家にいない。それもCさん.....、Kさん.....、Aさん、みんなが少なくとも一週間以上消息がない。私が電話を掛けてみても外出して不在だ。

以前なら帰ってきて電話を掛けてくるのだが消息がない。Cさんは旅行に行ったというが、帰って来れば電話を掛けてくるのだが、今回はそれもしない。何日間か旅行に行っていたと電話が来れば、住民登録まで移したのか……長い間ソウルで何をして過ごしていたのかと冗談を言ってやろう。

ところで、今度は余りにも消息がない。春風が吹いたようだ……本当に万事がうまく行かず、心を痛めることが余りにも多く、平安な人は殆どいない。事業をしている人は勿論だが、仕事がなく遊んでいる人まで心を痛めることが多いので、飛び回っていて家に帰ってもぼうっとしているようだ。

特に職場関係で悩んでいる子供のある人……株式に手を出し、数千万ウォンを瞬く間に飛ばしてしまった人達が非常に多い。お金のある人ほど金、金、金、金……といいながら更に胸を痛めている。最も悩みの大きいのは、家族の健康が極度に良くなって、巨額の金を使っても心配するしかない人達だ。利害関係で訴訟を起こし、裁判所に行ったり来たりする人達も悩みが積もっている。だが、そんな中でも春風が吹いて興じることは幸福な人だといっても良いのでは……？他の心配はないから……春風が生じる程度といえるのではないか！本当に大きな心配がないので精神を深く極めることだ……。

## 私の生活の中のコンピューター

私が生活する上でコンピューターが大きな位置を占めることになった。それは趣味だということも出来るが、時間と空間を有益に活用出来るからだ。[環境]机とコンピューターが別に設置されていたら不便で、机でもコンピューターでも利用が半減する。

それだから、私はこれらを記憶者として整理しておいた。机の前に座って右側、即ち右向け右をするとコンピューターに面して座って作業が出来る。[机の上の陳列]デザインよりも便利性を主とした。机の上の小さなノート（手帳型）に重要なメモが収録されていて、必要な時には直ぐ取り出して使用する。

そして、普段使用するすべてのものが陳列されている。孫達が必要なものを、おじいさんスコッチテープをちょっと、と言えば、直ぐ持って行って使って元の場所に戻さなくてはならない。おじいさんの所に行けばない物はないとみんなが言う。なければ私が不便だからと言うことだ。[コンピューター]右向け右をして右側に座ればコンピューターがあるので、先ず電源につないだソケットを、コンピューターが入っている箱の近くに固定してあるが、これは電磁波防止用ソケットで、4個のソケットにそれぞれスイッチがついていて、コンピューター用、テレビなどの電子機器用などに分かれていて、外出時にはこれ自体の全体を消すスイッチがあり、これを消せばよい。

そして、コンピューター用と電子機器用の小さな4個つつあるソケットが別に固定されている。ここにも夫々スイッチがついている。[採光]机の上の電気スタンドは蛍光灯の燭光が7Wなので、作業するとき光線が適当で目に有害でなく、眠っている人には如何なる支障もないように適当だ。時計も横を見ることなく、座っていて正面に見えるように配置されている。

このように使用に便利なようにしたが、横の孫娘が使っていた部屋を、私が使おうとコンピューターのテーブルを買って移った。机までも、椅子を置いて座る机を買って配置しようとしたが、そうすれば寝台まで必要となる有様となり、不便で複雑になるので現状に復旧してしまった。やはり空間を有効適切にしようとするれば、がらんどうの部屋があって、故郷から兄弟が来るとか友人が来て座って話をする場所が必要だと言うことに思い至った。このような環境で机にも座り、コンピューター作業もしながら、直ぐその横で眠ることも出来るなら、今私がしているように、2時でも眠れなかったらコンピューターで作業することが出来て、どんなに良いことか.....。

## 私のコンピューター活用範囲

私はコンピューターが生活の一部だと言っても、活用範囲は限定されている。娯楽に使用することは幼児が玩具を持って遊ぶことであり、大人が幼児のように、することがないので娯楽などしているのか.....?という考えを持っているので、趣味もない人間だと言われているかも知れないのだ。しかし私は私の活用範囲だけでも時間が足りない。

### [1]PC 通信

#### (1) 掲示板に掲載

最も多く利用するもので、文章を手覚えさせる重要な問題だ。一つの題目を書くといっても思い通りに作品を作ろうとすれば2～3時間が必要になる。だが私のように短く笑わせる簡単な文章は30分内でも書くことが出来る。そして、論説文だとか専門的解説は一日掛かっても出来上らず、日時が掛かることもあるのだ。

#### (2) 電子郵便

情報の直接交換だとか連絡事項に対する迅速な交信に最も良い。時折利用している。まだ私が熟達していないのでそうなのかも知れないが「ハイメール」は不慣れだ。それで利用しない。使用するメールは、人に尋ねる必要があるほど複雑でなく、直ぐ内容がわかる上に、相手が読んだ痕跡が残り、15日過ぎれば抹消されるのが良い。メモ(MM)も便利だ。簡単な連絡は利用する価値がある。

#### (3) 電子会議

1週間に1回、水曜日の10:30から行う電子会議も興味のある時間だ。だが私はしょっちゅう仕事が生じて忘れてしまう。これからは参加する積りだ。日本語の小集会にも毎週水曜日の07:30に30分間の電子会議を設定した。

### [2]インターネット

#### (1) 国内新聞

#### (2) 日本新聞

### (3) その他

を学んでいる。急いで慌てないようにと思ったのだが、「日本語小集会」\*でインターネットに加入しなければ活動が思い通りに行かないので慌てるようになったのだ。最近は慣れたようだ。それは諸先輩が陰に陽に教えてくれているからだ。

### [3] ホームページ

最近テレビを見たり新聞を見ると、ホームページの住所がみんな書かれている。今は、この住所がないと一人前の用をなさないようだ。それで私もしくはては……！という虚栄心を持ってみる。

訳者注：元老房の趣味別の集い（日本語使用者の集い）。

## 数日間の隠居生活は明日から開放

昔は70歳を越すと日本人は隠居生活をしてきた。韓国人は70歳を越すと高麗葬（人を生きたまま葬ったこと）をして死ぬのを待った。だが今はみんな昔の話になってしまった。

日本人の隠居生活と言えば、奥まった部屋、静かな所で過ごすことだ。高麗葬のように奥深い山に捨てるようなこととは異なる。一緒に生活しながら、みんな一緒に活動しながら呼称だけ「ごいんきよさま」と呼ぶ程度に尊称になってしまった。こんな意味から私は尊称を自称している。

日本式にご隠居様になって、何日間か室内で一人過ごしていたが、昨日の朝はみんな外出したので大門の外に出てみると、足がひよろひよろした。数日間の、この程度の運動不足で足がひよろひよろするのなら、1ヶ月間も病床に臥している人の運動不足は推して知るべしである。それで何日間かの隠居生活は事実上他意によるものだ。私が留守番をしなければならないことにもなり、また、整理することがあって、内実は自意もあったのだ。その代わり、10日からは教育があり、公務聖事もあり、集会もあり、旅行する用事もある。

それで、明日からは開放されるのだ。その間出来なかったことを、来週にわたってすべて楽しい気持ちで活動しよう。

## 銭湯の中で社会が見える

社会が乱雑で、悪が地上を黒く染め、善良な人は羽を伸ばせず、間違ったことをしていなくても常に罪人となり、伸び伸びした気持ちで行動できないのは、法よりも拳骨が優先するこの世の中のせいだ。

---

\*

何年か前に という友人が、明け方に風呂に行く親睦会を作り、夜が明けると5時半に集まって一緒に入浴する特別な集まりが五名で創設された。明け方に風呂の中でひそひそ興味ある話をする。ある日、いつものように友人達と一緒に入浴していると、40歳くらいに見える壮年が入ってくるや否や湯の中に入って行った。 という友人はそれを我慢できず、あなた、湯に入る前に一旦体を洗って入らなくてははいけませんよ……！70半ばの老人達はみんな同じ考えだったのだ。

だが、みんな物を言わず見ているだけだったのに、 という友人が勇敢にひとこと言ったのが災いの元になった。子供と同年齢の壮年だったので言うべきことを言ったのだ。ところで、その壮年が言った言葉は、何だと……！この野郎が……！父親のような老人に、腹が立ったと言ってもそのような言葉が言えるのか……？家では息子であっても、人間でない犬のような、人間ならざる人間なので、却って、済みませんでした、と謝って収拾したという。

今朝6時に私は、時折雨粒が一粒ずつ落ちている道を通って風呂に行った。二人入っていた。一人は水道水が出る傍で洗面器に水を受けて頭を洗っており、もう一人は四角な浴槽の傍で長々と寝そべてぐっすり眠っていた。

その場所は何時も私が座って入浴する場所だ。私の言う場所が問題ではなく、熱い寝湯が好きでないなら、窓を開けておいても他の人は誰もいないのだから不都合なことはないのに、20代半ばの大学卒業生程度のこの人は、自分一人で使用しているかのような錯覚をしているようだ。その後、三人が入って来て、五人の客が何をしようがぐっすり眠っている。私はこんな非常識な人間がいるのかと思いながら石鹸で洗い終わった後で湯の中に入った。熱い湯を頭から被せてやりたい気がした。

この場面も、わが国の社会をそのまま表現するものようだった。自分さえ良ければよいと言う考えで、他の人達に被害が及ぶのを考えない今の社会そのままを風呂の中でも見ることが出来た。

## ストレス解消はカラオケで

特に都会人は、なんでもないことへの不満と心配からストレスが積み、気が塞いでいる。気が塞ぐことは良いとしても、最も心配される病気は、ストレスが積もると癌になると言うから疎かにしてはいけない。それ故、よく食べようと食べなかりうと、肉になり血となるには、正に心が安らかでなくてはならないということをよく知らなくてはならない。世の中が世知辛くなり周囲の環境が一時も休むことなく心を圧迫すれば、ストレスが全身から去らないので、精神的に病気が浸透し始める。

そんな時、最も早く解消する方法は、一時でも万事を忘れることの出来るカラオケだ。暫くでもストレスを解き、楽しい気持ちで時間的に憂鬱症に隙間を作るのが、憂鬱症の病勢を中断する方法だ。

憂鬱症の隙間を延長する方法もある。それは欲しい物をショッピングすることだ。持っていたいものとか、買いたかった服などを買って、何時も触って



みながら馴染んで行き次第、気持ちが満ち足りて憂鬱症は消えて行く。  
毎日の生活で共感できることが多い。旅行するのも、良い景色を見、爽快さを感じるなど。また、芸術をめぐることにより心の傷を塞ぐ方法もあるが、すべてのことを、そのような目で、そのような心で行うことも、容易に行いうる方法だ。

家から市内に外出するときも、バスの中で観光の気分で生活の一つ一つを美しい瞬間として捕捉することも健康を保つ方便だ。性急な心を改めるのに、また、私の性分を直すのに努力している。

## 飴玉

家内が外出から帰ってきて砂糖菓子を2袋差し出す。何だと聞くと「南瓜飴」だそうだ。何時ものように「現代百貨店」に行行って買って来たと思ったが、孫が入院している「統合病院」に面会に行き、病院内の店で買って来たが少し安かったという。

家内は「南瓜飴」の他には菓子という物は好きでない。だが私は噛んで食べる菓子は好きだが、飴は歯に絡みつくので好きではなく、むしろ「飴玉」が好きだ。口に入れてしゃぶると甘味が溶け出して来て長持ちする。

飴は噛んで食べる時間が短く、一つの場所で10個以上食べる。菓子の表袋を見ると、「南瓜飴」ともう一つは「ウエハス」と書いてある。私は始めて聞く菓子の名なので、開けてみて沢山食べてみるとばさばさとして食べ易い菓子だった。たちどころに二人で一袋全部食べ、これが「飴玉」だったら沢山食べても2個で十分だったろうに……と思った。

昨日は一人で家で過ごしつつ酒を何杯か飲み、酔って眠って起きてから、夕食を食べろと言うのを食べなかったのが、夜中にお腹が心細くなったが、夜中にご飯を食べてはいけない。しきりに喉が干乾びて水ばかり飲んでいて。

今朝は体が軽い。酒気が溶けて入っていったのか……？と思ったが、いいや、酒気が蒸発したので体が軽いのだ……！と自分勝手に考えた。気分の問題だから……ということだ……

## 明日は分からないのが人生

昔から語り継がれてきた話だが、ある旅人が遠い道を歩いていて、喉が渴いたので井戸を探し水を飲んだ。再び歩こうとしたが、「二度と私が此処に来ることはないだろうから……」と、その井戸に用便をしてから歩いて行った。

それから幾らか後に再び此処を通ることになった。ところが喉が渴いたので水を飲まなければならなかった。用便をしたこの水を飲むことは出来ないと思っただが、喉がひどく渴いていて、仕方なくその水を飲んだと言う話がある。

今日私は集会があつて昼食時に酒も若干飲み、バスに揺られて帰って来たが

少し疲れた。青鶴聖堂前を通ると6番町営バスが来た。次の停留所で降りなくてはならないので仕方がない。我知らず6番町営バスがいると、降りる習慣になっている聖堂前だ。

前に一度運転手が不親切だったので、私の心の中でまだ怒りが収まらないが、既に降りたのでどうしようもない。乗って行こうと、楽に家に帰って来た。この町営バスは20分乃至30分で回って来るが、それも1時間来ないこともあり、歩いて家に帰るには10分あればよく、次の青鶴給油所で降りれば5分で家に帰ることが出来る。450ウオンの節約にもなり、歩けば運動にもなるのだが、今上り坂になって息苦しい。足は痛くないが息苦しいのが問題だ。平地だったら問題ない.....運転手が憎くて車に乗らないと言う不自由な人は一人もいない。ひょっとしたら私自身なのかな.....。

## 春が来るアリラン峠

我が家の窓を開けるとアリラン峠が見えた。だが今は見えない。高い建物が邪魔をして見えないのだ。当時はアリラン峠には家は一軒もなく、赤土の山道が見え、通る人は一人もなかった。若し一度でも人が通れば山賊が出るという噂があり、誰も通る人はなかった。

今は大きな家が沢山建って立派な都市になった。市内バスの終点にもなって、自動車もひっきりなしに往き来する。樹がない山道は、雨がひどく降ると洪水のように流れ落ちる。久し振りにその道を通ることがあった。暖かい春の日のんびりした気持ちになるこのアリラン峠は、私に昔のことを思い出させた。当時はやたらに歩き回れなかった道が、今は大きな町になり大勢の人が生活しているので感慨無量だ。春が来た.....はるがきた.....という気持ちは、もう一度若さを取り戻してくれる。気持ちが若ければ生命を蘇生させる瞬間がある。

## 過ぎ去ったことは忘れることだ

最近、したことを1分も経たずに後悔することが多い。だから完全無欠な人はいないと思う。その時その時の言行に欠陥があるということに気付かないのは、人間だからありうることだ。

再度言うと、人間が失敗するのは神でないからだと受け入れることが出来れば、乱雑な社会を正常だと考えることになる。だが、その失敗を極小なものから極大なものまで細密に分析して、失敗を受け入れられるものと受け入れられないものを選び出さなくてはならない。故意でない失敗だから罰せられないとするならば、煙草の吸殻を捨てて山火事になった場合は、失敗であるのにこれを不問に付すのなら一体どうなるのか.....？

国民全体が法を守り、良心的な人間として処世すれば、危険を事前に防止でき、道徳的にも遠ざけるべきものを近づけないよう未然に防止すれば、不幸を

生じないように出来るのだ。

しかし、よい意味で極小の失敗を長いこと後悔する場合はストレスになることがある。その期間が1ヶ月続くとか、時折昔のことを頭に思い浮かべる度に暫くの間でも苦悶することがあれば、それもストレスの原因となる。良いことと悪いことが絡み合っている人生において、すべてを繰り返し考え、悪いことで気持ちを暗くすれば健康に良くないので、忘れるのが良いのだ。

## 桜が終わったので八重桜にでも期待するか

何とかかんとか過ごして来たが、花見の時期を逃したので、桜が終わってしまったな.....仕方がない、八重桜にでも期待するか.....。

すでに歳月は音もなく流れ去り、春と冬の間でさまよっていて、寒かったり暑かったり春を感じられない日が多かったが、いつの間にか春と夏の間でさまようことになったのだなあ。気を付けて見ると桜の花は全部落ちて、やせさらばえた桜の木が道端に花びらを雪のようにばらまき、残骸だけ残っているのが悲しく哀れだ。

八重桜の展示場のような大庁公園は、五色の八重桜が燦爛としていたが、その後沢山切ってしまったと聞き、寂しい八重桜になったなあと惜しい気がする。また八重桜の大庁公園を作ってくれ。

ちょっといいなと賞賛すると、いつの間にか意地悪な人達がみんな切ってしまう。東萊山のコスモスと同じく、意地悪な行いがまだ消えていないのだなあ.....といいながら恨んでいる。

## 余りに悲しいと涙も出ないと言うが

何事でも行き過ぎると激烈な感情に変わる。純粋な感情は、笑うとか泣くとかして表現できるが、極度に感情が変われば怒りとなり、涙も出なくなり行動が変わる。

世の中の人達は極悪人が多く、世間を乱雑にし、金を奪おうと罪のない良民を殺し、他人を謀略にかけ、悪と善をあべこべにして無罪の人を罪人に仕立て、金をやらなくても済むことにも金を取り、金で出世して富者になり、貧しい人を益々貧しくさせ、無法の世界を作った詐欺漢は良い生活をし、正直な人は病気になる、このような世の中に天は罰を与え、雨も降らせず、生きて行くのを困難にしたことを、良心のある人は知らないことはない。

こんなことを正しても効果のあることでもないから、呆れ返って笑ってみよう。そうすれば気持ちが楽になるのではないか、と思いながら外に出てみると雨が降っている。神様が少し怒りを解かれたのかな.....?今日は安心して楽に休んでみよう。そうすれば涙から怒りに至らず、笑いに変わって行くのか.....?と笑いながら希望を持つ。

静かな朝だ。雨音も弱まったのが道の綺麗な水溜りに生ずる波線から分かる。雨傘を差して門の外に出る。赤いポストに手紙を投函する。羽を一杯に広げて早く飛んで行って渡しておくれ。雨が降っても濡らさずに綺麗なままで渡しておくれ。

## 天秤の使用

昔は薬局に行き薬を調剤してくれと言えば、天秤で薬を計り、白い鉢の容器に何種類かの薬を入れて陶器の棒で研ぎ、1回に飲むだけの量を、1日分だと3袋に分けて作ってくれる。このように使用する天秤は、写真を作ろうとして現像液や定着液を作るときにも使用する。

ある日私が郵便物を送ろうと、家で100g用の秤で計ってみると50gを指していたので、郵便局の窓口で受け付けてもらおうと51gだとのことで、規格外で倍に近い料金で受け付けることになった。1g多いので規格外の料金が適用され、100gの料金を取られれば、料金がどんなに間違っていたにしろ気分が悪かった。郵便局の秤は電子秤だから間違いないと思って直ちに電子秤を買おうかとしたが、大きなものを置いておく場所がないので、小さな電子秤はないのか...と秤屋に行ってみると、手の平ほどの電子秤は禁方\*で金を計るものだと言う。

だが、小さいこの秤は、郵便物を載せておくと秤の数字を覆ってしまい使うことが出来なかった。全部断念して過ごしたが、500g用の一般秤を百貨店で買ったが正確でない。結局は、これは少しはましか.....?と、他の種類を買ったので3個になる。しかたなく1000g用を買ってみた。やはり少し正確だ。だが50g以下はどれも正確でない。どうしようもない。昔私が写真薬を調剤した天秤を屋根裏部屋を整理して発見し、出して来た。これは電子秤より正確なようだ。と言いながら日本や米国にも正確な郵便物を送ることが出来る。

切手は多くの種類が準備されている。それで、手紙を書き、秤で計ってみて、料金表を見て切手を貼ってポストに投じてしまえば終わりだ。簡便な世の中、手紙を書いて文通することも一種の趣味だと言える。すべてのものが煩わしいと考えるのは止そう。人生はこんなところに妙味がある。訪ねてみて楽しければこそ新しい世界が展開される。

訳者注：辞書によれば薬剤の処方などの秘法、秘伝とか。

## 五色満開の植木鉢の陳列

荒れ果てた寂しい庭園にも春雨が降った後で牡丹が広い葉っぱをひらひらさせ、チンダルレ（訳者注：つつじ）の白や赤が葉の間から外を窺っていたが、今日は植木鉢を大門から玄関の前まで陳列しておいたら、春の日を色濃く感じ

---

\*

させられた。名も知らぬ花を女房が大切に植えて育てた甲斐があって、黄や赤の花が満開で、青い花も加味され、燦爛と輝いている。惜しいことに敷地の中央に頑張っていた千里香が、25年間2月と9月には花が満開となり、独特な香りを大通りを通る人も嗅ぐことが出来たのが、枯れてしまったことだ。だが、切ってしまった後で、生きていた1枝だけ挿し木したのが、葉っぱが1枚出て来たので希望が持てる。

春だとは言え、寒いと言う家族達は体が衰弱しているのか……？深夜電気の調整をして部屋を暖かくしてやった。まだ体が完全に回復していない末っ子は、寒いと言うから暖かくしてやらなくてはならないだろう。

## 春雨がとめるので待って下さい

末っ子が来て、チョンリョン洞墓地に祭ってある父母の墓参りに今日行くことにしていたが、行かなかった。早朝ミサに行って、帰りがけに雨が降り少し服を濡らした。今日の計画は変更になった。墓参りに行くのは、雨が降った後は良くない。断念して、地面が乾いた後で行こうと言ったが、午後は地面が乾くような天気だった。明日に延ばそうと言って、今日は落ち着いて部屋の中で終日過ごした。静かに座っていることは出来ない。名簿の整理が延び延びになっている。ディスクに入れた名簿の原簿を訂正したものが、擦れて使えなくなっている。全部取り出して調べてみると、一つが活着しているようだった。

だが、いつだったか追加整理しておいたものが保存されていないので、もう一度やろうと午後はそれに没頭した。何かをしていれば時間が過ぎるのが分からない。朝早く起きて活動する日は、2日間に相当する気がする。更にこまごました物を持って来て手入れすれば、実績は上がらなくても時間は大いに食う。今日はそんな日のようだ。空想が遣り甲斐のないことは、人生の夕暮れの道と同じだ。

大葉蘭の花が咲いたと、部屋の中に女房が持って入ってきた。初めは鏡台の上に載せておいたが邪魔になるようだ。香りがいい。私の本立ての上に載せておいた。匂いがするのだろうか、よく分からないので、花に鼻を当てて嗅いで見ると、良い匂いがする。一杯に咲いた6個の花は可愛い。明日は末っ子と一緒にチョンリョン洞に行こう。それから、末っ子に、釜山に来るときは必ず祖父と祖母の墓に行ってお目に掛かって来なくてはならないと言っておいたが、私の言葉をよく聞いたらどうか。私が活着している時からそんな考えを忘れずにいてこそ、私の家族は後々忘れないようになるのだ。

## 黄色い花に替えて挿しながら

寒食清明には墓参客が公園墓地に満ち溢れ父母の墓参りで混雑するのを避けるため、10日前に行ってきた。その時は芝生が灰色に枯れていて手入れする

こともなかった。

昨日はソウルから末っ子が来て、先祖の墓に行ってみようと一緒にいった。我が家の車は孫を病院に連れて行くというので、心配せずに行ってお出でと言って、我々は、影島大橋まではバスで、梵魚寺までは地下鉄で、そして市立公園墓地5墓苑まではタクシーを利用した。

墓は芝が綺麗に育ち、雑草だけ間引きしてやった。寒食前に来て挿しておいた赤い色の薔薇は、若干色褪せていて私の心に引っ掛かる。家族は、まだ悪くはないと言うが、ゆっくり歩いて花屋に行く途中で、娘が車に乗って来るのに出会った。乗って、車を回して花屋に行った。

花屋のおばさんが私を懐かしがる。来るたびに私は馴染みの花屋のおばさんに会う。赤い色のは早く色褪せるので、今度は黄色にしてみようと思った。菊の花も同じ色にして美しかった。2本で1万ウォンだが、9千ウォンだけ下さいと言う。

私は墓地の真ん中に位置した孤独なこの花屋には心を動かされるものがある、此処で買ってやり、花の値段はくれと言うだけ絶対に払う。数万人の亡者の真ん中で生活して行こうと、雨が降ろうが風が吹こうが店を開き商売しているのは、墓苑入口に軒を並べている商人とは違う。

私は気掛かりなことが一つある。夜も此処で寝て生活しているのか……？「鬼神が出たらどうするの……！」と。前に聞いた話だが、雨が降れば匂いがするし、夜には話し声が聞こえてくると言うことだが、これはしなくてもいい話だなあ……黄色い花を2本買って墓に帰り、挿すと明るくなった。隣の他人の墓は寒食清明に来て、色とりどりの花で飾るだろうが、当家の花だけ色褪せていてはと気に掛かっていたことがさっと晴れた。祈祷をして花を替えるだけが習慣になっていて、綺麗に清掃した座板に酒を供え肴を置いて、静座して祈祷文を読む。

隣に住んでいた同い年の友の墓を振り返った。夫婦が並んで眠っている。花も新しく挿してある。子孫達が立ち寄ったのだ。そして友人の父母の墓にも回ってみた。立ち寄ってから数ヶ月になるようだった。新しく挿した黄色い花をもう一度振り返りながら止めておいた車で帰って来た。

## 大葉蘭を可愛く思ったが結局は

「子供を可愛く思うが、鼻が埋まる飯を食う」という言葉がある。子供だけでなく可愛がった獣も同じで、被害を被ることがある。犬は主人の恩恵を忘れない動物だが、猫は恩恵を知らず害すら与えることがあるという言葉がある。いや……それだけではない。

私の部屋で大葉蘭を本立てに載せておいたのを、女房が水をやる時になったと持って出て行った。可愛い花が6個ぱっと咲いていて香りがいい。水を替えてやり皿の上に載せて元の場所に置いた。少し経って見ると水が溢れ、机が濡れ本立ての色が落ちていた。

植木鉢の中に溜まっていた水が徐々に抜けて下がって行き、下の皿から溢れ

出たのだ。拳くらいの大きさの植木鉢もそんな被害を及ぼすことがあるのだ。すべてのことは小さいからと言って無視してはいけない。

鼠が穴を開けると鼠穴が出来る。そんな程度のものが、その塀を崩しさえする。こんなことは何処にでもあてはまることで教訓になる。

煙草の吸殻が山火事を出す。小さいことを無視することは慎まねばならない。植木鉢を部屋においては良くないと言うので、廊下に出しておいた。机に被害を与えた瞬間に実行したのだ。大葉蘭の罪ではない。人が間違っていたのだけれど、間接的な因果関係があるのだ。

## 捨てることも知らなくては

妻の妹が白内障の手術をして眼鏡のレンズを入れ替えなくてはならないから、知り合いの眼鏡屋に連れて行ってくれというので、国際市場に外出した。その眼鏡屋に行くと、社長のご老人が何時も変わることなく懐かしがる。レンズを入れ替えて出て来る途中で、開襟シャツを買うため大きなパークランドで色々な種類が置いてある所を探して、送ってきた割引券を持って立ち寄った。定価 57,000 ウォンの 30%割引で 39,900 ウォンだが、割引券があれば 34,200 ウォンになる。割引券が 99 年度の期限を越していて、40%割引にはならず 30%の割引しか出来ないと言うので、57,000 ウォン損をして悔しいけれど、気前よく目をつぶって買って帰って来た。

本当に数日前にパークランドから割引券が来たのかね.....? と言いながら家に帰って調べ、2000 年度に送ってきた割引券を探し出した。だが 5,700 ウォンの損をしないよう、もう一度訪ねて行って割引券を出して処理してくれと言う勇気が出なかった。気前よく光復洞パークランドの紙屑箱に 5,700 ウォンを捨てた、と言って済ませた。悔しいことはない。服が一つ手に入ったのだから、捨てることも知らなくてはね.....。

## 空想と思考

虚空を見上げぼやっとしている人を見ると、果たしてこの人は何を考えているのか.....? と思うことがある。無感覚なのか。空想をしているのか.....? と思って見ると、空想は無感覚よりはよい方だと思える。人は考えることが必要だ。

すなわち、思考は人間の脈が通じているのだ。思考方式が良からうが悪からうが、まずは頭が働いていなくてはならない。さもなければ、気の抜けた人間になるのだから.....。空想は砂の上に家を建てるようなもので、成し遂げることは出来ず崩れるものだ。初めからなしえないことを知りながら夢を見ているのが空想だ。可能性があることは空想ではない。

人間は思考によって発展して来た。常に発展のために考え、未来に成し遂げ

うることを考えて生きて来たからだ。エジソンが電気を発明するとき、昼夜を分かつたぬ思考の連続から生み出されたのが電気なのだ。今は途方もない発展からコンピューターが生まれ、これからはどんな素晴らしいことが生まれるか分からないのだ。休まず人類の発展の為に努力しながら生きて行かねばならない。

## カーネーションを胸につけ

早朝ミサに出掛けた。何時も私が座る椅子は後ろの方ののんびりした場所だ。今日も後ろの場所に座っていると、老人達が前に来て座ったが、話しもよく聞こえてよいと言って、前の方の席に移動して行った。

復活第3週のミサは今日も月並みな進行となり、聖体拝領頌から「キリストは苦難を受け、3日目に死人の中から甦り、その名によって悔い改めるならば罪の許しを得られる、と言う嬉しい報せがすべての民族に伝えられるであろう。ハレルヤ。ミサが終わり、神父さんが言われるには、「明日は父母の日です。今までは高齢者を65歳として花をつけて上げましたが、今は年齢が高くなっているんで70歳以上のおばあさんとおじいさんにだけ花をつけて差し上げます。70歳以上は前に出て来て下さい」ということで前に出て行った。30名を超えたようだった。明日が父母の日だが、今日1日繰り上げて花をつけてくれるとのことだった。花をつけて戻って来ると決まりが悪いので、顔なじみの友人に「僕、勲章つけた……！」という、立派な勲章ではないがおめでとうございませう、という。

そうだ！年を取ると何が良いと言っても花までつけて貰い、勲章だと自慢することだ……？と心の中で思って、家に帰ると女房が、それは何なの……？と言うので、もう一度自慢する。年をうんと取った自慢は女房にはしても良い。分かっている事実だから……それだけではない。私は年を取っているのだから良く仕えるべし。えっへん……。

## 花盛りの季節

牡丹の花が散り、辺りに咲き乱れる映山紅が満開で、くちなしの花がにっこり笑って花びらを突き出している。蛍袋は赤い色をして恥ずかしそうな顔でぶら下がっている。清楚な菊の花が一輪満開となり、辺りを仄々とさせている。植木鉢が陳列された階段の周辺では真紅のブーゲンビリアが人の目を引いている。

大葉蘭が良い香りを漂わせ、可愛い花は精密な形を描き高尚な姿で人を誘惑する。花の中の王、牡丹の花は消え失せ、色々な花が我が世の春とばかり活気を放っているようだ。西洋クローバーという名だったか葉が大きく、新しい葉っぱが花壇を占領し、花が沢山芽を出し始め、日光ですっかり開いた桃色の花が花壇を完全に借用してしまった。



トウゲルレの花が提灯を並べて吊るしたようで可愛い。その上には柿の木の葉が薄い色で茂り、光を遮ってくれ始める。ふさふさと生りはじめると、甘柿が1000個は出来るようだ。去年は70個生ったが、今年はもっと生ることを期待している。夜になると柿の木の葉の間から街路灯が顔を出し、花壇と道行く人を照らしてくれる。みんな夫々役割を果たしているのだ。

夏になると色々な蝶と鳥が街路灯に飛んで来て盛況をなし、ぶつかって死んでしまう数も多い。花には蝶が止まり、昼夜の活動が入れ替わり、歳月により花と鳥にも因縁が綿々と繋がっているようだ。

## 風とともに行ってしまった人

父母の日に、心の中で花も嫌いだと言って、風について行ってしまった人...無常とでも言おうか。

金兄.....！あなたは何を急いで息せき切って去って行かれたのですか.....？だが、傘寿の祝宴でもやって行かれるのですか.....？心臓に機械を着けて辛うじて過ごして来られた有様でしたが、今は心臓ではなく、他の病を得て遂には去って行かれたのですか.....？寝付いてから幾らも経たない病床で不自由な毎日を過ごされましたが、そんなに早く行かれるとは思いませんでした。幸いにも奥様より先に行かれたことは良いことと.....男やもめにならず済んだことはこの上ない幸いなことですが、カプジャン\*が行かれて、私もこの上なく悲しんでいます。

だが80歳は、まだもっと生きていても良いものをてんと考えてみた。キムボンヒョンカプジャンの冥福を祈りつつ、今、他のカプジャンの電話を受け、人生の無常を思いながら、みなさんの健康を願う次第だ。

訳者注：\* 同い年の友

## エアコンを試運転しつつ

去年の夏は暑さが甚だしく、冬になるのを待ち焦がれ、冬になってみるとひどく寒くて、夏が待ち遠しかった。ところで今年は夏になる前から暑くなり、昨日は2階の欄干を苦勞して通って、エアコンの空気筒と排水パイプを引き抜き、網で穴を塞ぎしっかりと繋ぎ込んだ。

20年前にエアコンを買って設置し、ひと夏過ごしたとき、雀が巣食っているのが分かり、エアコンの後に入り込み機械が故障するのではと思って、翌年からは網で塞いで置くようになった。そして試運転してみることをすっかり忘れてしまった。テレビの作り事を見て、急に思い出して試運転をすることになってになった。今は健忘症もひどくなって忘れることが多い。1年に1回は扇い

\*

だり焚いたりするのが行事になってしまった。

長いこと使ったエアコンだが、私がある部屋に「弱」にして使えば、扉を閉めると寒いくらいで、1時間程つけてから切り、一時間後にまたつける。東芝製のこのエアコンを1時間の間「強」でつけると1KWの電力消費だった。経済的だ。音もせず静かだ。横の部屋のエアコンは金星製品で喧しい。

我々の部屋の扉と、横の部屋の扉、そして孫の部屋の扉まですべて開けておき、2台のエアコンをつけると、2階は涼しい秋の気分を夏でも味わうことができる。熱い空気は上に昇って来て、冷たい空気は下に沈む。それ故、夏は下の階は暑くなく、2階は暑い。だから2階でエアコンをつけると下の階ももっと涼しくなる。余り暑くないときは扇風機で我慢する。

## 病院と医療保険証

医療保険証がないので病院に行っても受け付けてもらえない。世帯主の職場の変動により医療保険証を更新しようとするのだが、デモのため遅れて、まだ出来て来ないので、私が風邪に掛かっても病院には行けなかった。薬局で薬を2回ほど買って飲んで治らない。柚子茶を作って飲み、智異山から4年振りに出るといふ喉の風邪薬を煎じて飲んだら大分良くなった。

しかし医療保険証が出るのを待っていると、私の風邪が悪化して死んでしまった後になるだろうと思って、保健所に行ってみた。医療保険証がなければ一層不可な所だ。医療保険証がなければお金がうんと掛かりますと受付の担当者の話だ。分かっています、お金は幾らでも出しますから受け付けてくださいと言うと、待っていると。言う。

私は9時10分に来たのだが、私の前の順番の患者が、いつ診察を受けられるのかと聞くと、午前中には難しいと言う。その人は、それじゃ駄目だ、と言って帰って行く。それならと、私も住民登録証を返して下さい、それまで待つことは出来ませんよ、と言って住民登録証を受け取って帰って来た。家内が、誰々さんはこの町内の 病院は医療保険証がなくても、お金さえ出せばよいと言うことなので、そこに行ってお覧なさいよ、と言うので、知った人の案内で行ってみた。

最近新しく出来た病院だ。親切な若い看護婦さんが、医療保険証をどうして持たずにお出でになったのですか.....?と言う。私は年を取っていつ死ぬか分からないから、医療保険証なしでこのようにやって来て診療を受け、注射をしてもらっても良いのですよ.....と笑った。診察してもらい注射室に入った。年取った看護婦が「この注射は痛いですよ」という。私は「大きな注射で痛くして下さいよ、それで早く治りますから」とまた冗談を言った。

私は何処へ行っても冗談を言って面白がっている。1日分の薬を貰って、明日もまた来るのだそう。だが、近いところにある病院なので便利だ。車に乗らず歩いて来ることが出来るからだ。喉に痰が詰まって、話をすれば、話す人も骨が折れ、聞く人も骨が折れる。だが、冷や汗が出て、少し寒くてもぞくぞくする。だから安心は出来ない。何日間か注射してもらい、薬を飲めば治るのだ

と確信する。そうして生きて行かなくては.....

今日北山\*に旅立つ私のカプジャンはどんなに悔しがっているだろうか...  
...? 良い暮らしもせず、あんなに沢山の財産を妻子に残したことに満足して行くのだろうか.....? 一文でもけちけちして使いもせず行ってしまったこの友人は、私の考えでも鬱憤のあることと思われる。私などは死ぬ前に私の財産があれば全部使ってしまうのだが、思想が違うようだ.....。

訳者注：\* は郊の字の交が亡になった字で死者の地か。

## ホームショッピングの時代

近頃、郵便物はホームショッピングの宣伝冊子が途絶えることがない。どのようにして名前と住所を知って商品宣伝の冊子を送ってくるのか.....本を開いてみながら目の保養をすることも楽しいことだ。あれこれと本の絵を見ていると、欲が出ることもある。そうして電話機を持ち上げることになると、正に品物を注文することになり、何日か過ぎると現物が到着する。到着した品物を広げてみると、気に入ることもあり、注文が失敗だったこともある。

ホームショッピングの長所は、1) 発明品の早期購入、2) 価格の低廉、3) 分割償還の便利性、であり、短所は、1) 衣料品の季節経過、2) 宣伝商品との差異、3) 実物を直接確認できないことによる期待との食い違い、などの点だ。ジャンパーを注文したのが、ベージュ色を注文したのに黒い色を送って来たので電話を掛けると、間違えました、もう一度送って上げますと言うので待っていたところ、今日ベージュ色を送って来て、黒い色を持って行った。このように便利なホームショッピングは興味のある商品購入の方法だ。

だが不用不急な品物を購入してしまう場合が多い。それだけでなく私の体には大きすぎる服を仕方なく我慢して着なくてはならない有様だ。出来るだけ節制した生活をしなくてはと思いながら実践できないのは、ホームショッピングが本によって虚栄心をそそる結果だと見られる。

## 春雨が私の心を掠めて行った

風邪に取り付かれて胸が痛む近頃は、狂乱する春風が吹き荒れ絶叫し続け、遂には春雨が訪れ掃き清められ、夜が白み始める時間となったのだ.....

雨に濡れた釈迦牟尼の誕生日の祝賀は、天主教と改新教の祝意に満足した心が全世界に広まり、南北対話の合意に近い成果と、すべてが順調に成し遂げられることを願うのだ。私の心だけではない。植物の世界では小さな庭園でも種々の花が満開で、黄色い巾着草の花がすべての花からお金を掻き集めてくれて巾着に入れている。

---

\*

花中王の牡丹の花びらが落ちて、統制者がいないので滅茶苦茶なのかね...  
...?無秩序なのか.....気持ちを引き締めてこの世の中を生きて行こう。目を閉じる瞬間、鼻を切り取られるかもしれない\*。これからは、しっかり前方を見つめて歩こう。鼻だけ切っていくのではない。足も短くして行く。恐ろしい世の中.....欲張ることは止めよう、欲は体全体を土の中に埋めてしまう。

訳者注：目をつぶった瞬間鼻を切られる危険がある、という諺から。

## ショッピングに意欲がなくなったら

今日は通りがけにアラムマートに入って行き見物してみた。スーパーの品物は大型だと言うのではなく、種類が多いということだけだ。だが、私がショッピングする所には買いたい物が多かったが、今ではそうではない。みんな必要でなく、ただ一種類、旅行に行くとき必要な水割り焼酎だけだ。水割り焼酎だけ5個買って、女房は塩辛のようなものを買って帰ってきた。長く生きるために、あれこれ眼に入ってくるものを全部買いたかった頃は、意欲が溢れていたのか.....?

私が何日間かの喉風邪のために、生に対する自信を喪失したということなのか.....?と考えると、いや.....元気を出そう.....まだ遠い。人生は70からだと言ったね.....算数でも自慢しようと思うと再び生き返るような気がする。焼酎は何処に言って飲もうか.....どうせのことなら遠い所で飲もう。広い眩野を歩きながら、そして独特な雰囲気の中で、未来の門を叩きながら大声を上げよう。竜を驚かせてやろう。こんなことを考えながら今日も日が暮れ、初夏の土の匂いを漂わせる道に従い暗くなった空を仰ぎ見る。

## ネクタイの過去と現在

数千年前から男達は首の周りを飾ることに関心があつた。紀元前 1737 年にエジプトのファラオはヨセフへ金の首飾りを与えた。(創世記 41:42)

今日、世界の色々な地域で男達はネクタイと言うものを結んで歩き回る。現代のネクタイの先祖格が登場したのは16世紀後半のイギリスとフランスからだった。当時の男達はダブリットという上着を着た。そして正式には首に襷のついたカラー(ラフ)をつけた。

その襷付きのカラーは厚さが数インチにもなるものもあつたので、大きな皿のようなものが首に箍をはめて包んでいる形だった。襷付きのカラーは白い布で作られていて、形を維持するため、こちこちに糊を利かせて処理した。この襷付きカラーは肩全体を覆い、腕の上側まで垂れ下がった白色のカラーだった。こんなカラーをバンダイクカラーとも呼んだ。

---

\*

17世紀後半の絵を見ると、その頃クラバットが人気があったことが分かる。

クラバットはモスリン、ローン（縁が薄く透けた布）、甚だしいのはレースで作った。レースで作ったクラバットの値段は高かった。ウエストminster大聖堂にあるチャールズ2世の彫像を見ると、そのレースクラバットは幅が15センチ、長さが86センチにもなる。1860年頃には、クラバットの長い両側の端が現代式タイと形が似たものになり、それをネクタイと呼び始めた。

またフォアインハンドとも呼ばれるが、この名前は四頭立ての馬車の御者達が用了結び目に由来したものだ。他の形の蝶ネクタイは1890年代に人気を失うようになった。

今日、多くの人達はネクタイが服装の重要な部分だと思っている。甚だしくは、人に初めて会った時、どんなネクタイをしているかによって、その人を評価する人達もいるのだ。それ故、シャツとズボンとチョッキに似合う柄や色合いの清潔なネクタイをすることが賢明だ。

## コーヒーを飲むと眠れないんだって？

眠れないからと言ってコーヒーを飲まない人が多い。人によっては午前中は飲み午後は飲まない人もいれば、一日に2杯以上は飲まない人もいる。

また、午後5時からにはコーヒーを飲まない人がいるかと思えば、就寝2時間前までしか飲まない人もいる。そうかと思うと、夜明けからコーヒーを飲み、モーニングコーヒーと言って朝も飲み、食後には必ず飲まなければ願望が遂げられず満足しない人もいる。夜も昼もコーヒーがなければ生きて行けない人もいれば、コーヒーと言えは全然飲まない人も幾らかいる。飲んでもよし、飲まなくても飲みたくならない人もいる。最も無難な自然な習性だと思う。

私はコーヒーは好きだが、飲まなくても構わない食性だ。だが、茶房で友人達と茶を注文するときは、最も簡便な注文はコーヒーだと思う。それは多くの人がコーヒーを注文するので、作るとき同じ茶を作れば容易なことだと思われるからだ。これを調理するのに一緒に作ってこそ自分の味で調理できると考えるからだ。そんな意味で、単純な行動で気持ちを統一すれば、何処でも心を合わせることが出来るのだと思う。

私は一日の間でコーヒーを飲んでも飲まなくても、そして昼でも夜でもコーヒーを飲むのは構わない。眠れるか眠れないかも分からない。寝ようが寝まいが、それは私の心ではなく、眠りが勝手にすればよいのだ。だから眠たくなれば眠り、眠たくなければ眠らないでも、学生が学校で勉強の時間に眠るとか...勤務する人が勤務中に眠くなり仕事に支障があるのとは訳が違い、私は一文無しののらくらのように、いつでも眠ければ眠るので、コーヒーを飲んで眠くなるうがなるまいが無関心なのだ。

## 夏のようなかんかん照りの日差しの下で

明け方道路に出た。近頃は6時は明るい昼になってしまった。昼が長くなった証拠なのだ。簡単な服を着ているので肌寒い。もう一度風邪に掛かると大変だと思ったが、家に引き返して服をもっと着込んでくるのが煩わしいのでそのまま聖堂に入っていった。

今日は農村の聖堂から神父が来てミサを行ってくれた。降福時間を利用して、わが国の農産物を愛用しようと言う奨励演説を40分行った。外国から輸入する穀物には防腐剤が入っていて人体に有害であり、わが国の穀物を食べて農民が生きて行けるようにしなければならないという当然な話だが、なかなか実践されずにいるので神父が先頭に立って各地方を歩き回りながら奨励しているが、同じお金でもわが国の農産物を愛用して愛国者になることは出来ないのか...?と残念がる。

昼になると陽がかんかん照りで夏のような気分だ。私は家で一人過ごしながら、前庭に出て色とりどりの花を見ながら観賞していた。詳細を見ると淡紅色の松葉牡丹の花が満開だった。久し振りに見た松葉牡丹の花だ。そして鳳仙花の花も咲いていた。この花も久し振りに見た。最近は玄関の階段に上がって遠くばかり見ていたので、こまごました花は関心がなく、花の色ばかり観賞していたので詳しく見るのは久し振りだ。

幼い頃、母が姉の爪に鳳仙花の花をつけて、葉っぱで巻いて糸でくくってやりながら、私の小指の爪にも塗ってくれたことが思い出される。

いっとき鳳仙花の花を見ずに通り過ぎたので、今日は昔を回想することになったのだ。かんかん照りの日差しの下、花を観賞するのも久し振りだ。

## 1 ドルのチップの価値

引き出しで何かを探していると使っていない財布が出て来た。1枚の1ドル紙幣が入っていた。

20年前(還暦)に東南アジアへ行ったときから、10年前(古希)にヨーロッパに行ったとき、そして5年前にハワイに行ったとき、3年前(喜寿)にオーストラリアに行ったとき、すべて行った所ごとに、全く同じ行動が一つあった。

ホテルに宿泊して出て行くときは、枕の下に1ドルのチップを入れておいて出て行くことだ。それは国際的に習慣として作られたものか.....?1ドルと言えば、わが国のお金で1,000ウォン程度で、わが国のホテルで仕事をしているおばさんは、こんなものをチップとしてくれるのか.....?と腹を立てるかもしれない。それで私は夫婦が宿泊して出て行くときは、二人だから2ドルを入れておいて出て行く。他の人に聞いてみると、1ドルだけ入れればそれでいいとは言えないが、すまない気がするのだと言った。

外国旅行から帰ってきた人は、そうして残った1ドル紙幣1枚程度は持っているのだ。コインは飛行場などに小銭を入れる筒があって入れてくることが多い。隣の思い掛けない出来事を助けるのに使おうと外国でもそんな風だ。わが

国の人には1ドルすなわち1,000ウォン程度は余りにも少ないお金と思っている。もし1,000ウォンを食堂従業員にチップとして上げたら口を尖らせるだろう。こんなチップが何処にあるかということだ。1ドルの価値がどんなものかよく考えてみなくてはならないことだ。

## ぽつりぽつり落ちる雨粒は

私の寂しい心に空が同情して与えてくれた雨粒なのか……？いいや、空が同情したのではなく、可哀想だと思ったのか……？一粒、二粒、頭と顔に当たりながらバスを待っていた。なかなかバスは来ない。空は私を見て、この阿呆、お前は何をしに雨粒が涙になるほどうろついておるんじゃ……！と言いながら私を促す。バスがうまく来もしない中央洞で待っている私を哀れに思ったようだ。

私は悟った。地下に入って行った。そして影島大橋に出て来た。1分も経たないのにバスが来た。バスは走っているが、私が急ぎ足でバスの方へ来るのをバックミラーで見て、停車して私を乗せて走る。このバス運転手は私を見ることが出来る。他の運転手達は停車せず逃げるように走っていくのだ。可愛い運転手だ。帽子を被っていても耳の辺りや後頭を見ると白髪なのが分かる……敬老精神が行き届いている運転手だからだ。空もそんな気配を感じ雨粒を止めてくれる。雲に覆われて見えない空だけれど、空からは目を瞑っていてもみんな見える。神通しているのが空ではなかったかね……？少しだけ人間達が悪いことをすれば唸りを上げる。雷が鳴る。風が吹く。そして大雨を降らせて殺してしまう。